

NEWSLETTER

No.1
Vol. 45
2018.10

What's
New

「“新専門医制度”がはじまりました」

「新任役員・副学長の紹介」

専門医養成に取り組み、静岡県での医療を維持、そして発展をめざす



“新専門医制度”がはじまりました

浜松医科大学医学部附属病院卒後教育センター長 須田隆文

皆さまご存知のように、当初の予定より1年遅れて、いよいよ今年から新専門医制度が始まりました。実際の専門研修はこれから始まりますので、この新専門医制度そのもののアウトカムはまだわかりませんが、すでに募集の段階で問題が持ち上がってきています。特に静岡県は、この新専門医制度の大きな影響を受けそうです。

新専門医制度の必要性

さて、そもそも今なぜ、新しい専門医制度が必要なのでしょう。今までも、各領域のそれぞれの学会が独自で専門医制度を設けてきました。しかし、そのために専門医の種類がどんどん増え、現在、102もの専門医が乱立し、一般の人にはわかりにくく、さらに各領域学会によって制度間のバラツキが大きいことが指摘されていました。そこで、客観的に専門医の質を担保し、国民にもわかりやすい仕組みの新たな専門医制度をつくることとなったわけです。これからはじまる新しい専門医制度には大きく2つの特徴があります。1つは、日本専門医機構と言う新たに設立された第三者機関が専門医制度の標準化を行うことです。2つめは、基本的には2階建ての専門医制度になることです。つまり、例えば呼吸器内科の専門医を取得する場合、まず1階（基本領域）の「内科専門医」を取り、その後、2階（サブスペシャリティ領域）の「呼吸器内科専門

医」を取得します。この1階の基本領域には、既存の18領域に加え、新たに総合専門診療科が加わり19領域になりました。只、一部の診療科（皮膚科、眼科、精神科など）は1階のみとなっています。

新制度の問題点

さて、今回、募集の段階で見えてきた新専門医制度の問題点としては以下のようなものがあります。

- ① 都市部への偏在
- ② 診療科の偏在（内科、外科の減少）

まず、①の都市部への偏在についてですが、元々、都市部への応募者の集中を防ぐために、医師の少ない一部の診療科を除いて、都市部（東京、神奈川、愛知、大阪、福岡）には過去実績に基づいた上限を設けた募集定員となっていました。しかし、実際には、全国のお募集者の40%がこの都市部に集中してしまい、専門領域によっては応募者がゼロの都府県もありました。やはり、応募者は都市部の大病院の方がより効率的に専門研修ができると考え、地方の病院を敬遠したようです。

次に、②の診療科の偏在については、以前より、内科、外科、小児科などの2階建ての専門領域では、例えば循環器内科の専門医になろうとしても、2年間の初期研修後に、再び内科全体をローテーションして原則3年間にわたって研修しなければならず、より早く専門研修に進める眼科や皮膚科、耳鼻科などに人気が出るのではないかと予想されていました。実際、2014年に行われた三師調査（医師・歯科医師・薬剤師に関する厚生労働省の調査）と比較しますと、今回の応募者の領域別割合は、内科は15.2%、外科は10.7%も減少したことが報告されています。逆に、形成外科は28.7%、眼科は24.5%、耳鼻咽喉科は16.5%も増えています。

静岡県へのインパクト

次に、それでは静岡県には、この新専門医制度の導入はどのようなインパクトを与えたのでしょうか。次のような点が大きな変化として見えてきました。

- ① 県内の専攻医*が激減した。
- ② 県内の専攻医の研修施設の中で、浜松医大の占める割合が大きくなった。

まず、本県にとって最もショックだったことは専攻医が全体で大きく減少したことでした。今回、静岡県の応募専攻医は全部で115名でしたが、これは前述の三師調査の169名からは54名の減少となりました。これは東京や京都など4～5割増の都道府県がある中で、全国で最も専攻医が減少した県ということになってしまいました（図1）。また、人口当たりの専攻医数は、全国でビリから3番目に少ないことになります（図2）。2年前の静岡県内の初期研修医の数が194名でしたので、県内外の出入りもあるので単純には言えませんが、194名の初期研修医の中で80名弱が県内の専門医プログラムを取ってくれなかったことになります。その大部分は県外、特に首都圏に流れたようです。

次に、県内の専攻医が応募した施設をみると、浜松医大の専門医プログラムに82名が参加しており、県全体の専攻医の71.3%が浜松医大を基幹施設とする専門医プログラムで研修することになりました（図3）。県内のこの年度の初期研修医194名の中で、浜松医大の初期研修プログラムをとったものが30名（15%）しかいなかったことを考えますと、大幅に増えたことになります。これは、元々、診療領域によっては専門医プログラムの基幹施設となる要件が厳しく、大学しか基幹施設にできない領域（例えば眼科、耳鼻科、皮膚科など）があったことにもよりますが、いずれにしても、今後、静岡県の専門医養成において本学の役割は益々大きくなるものと思います。

考 察

以上のように、新専門医制度の初年度を迎えて、静岡県にとっては専攻医の激減という大きな課題が突きつけられた格好になっています。本県は全国で最も規模の大きい医学修学研修資金制度を設け、事実その効果も上がり、県内全体の初期研修医は着実に増えてきました。しかし、実際、静岡県の各地域に本当に根付いて働いてくれる医師は、2年間しか本県にいない初期研修医ではなく（将来、戻ってくる可能性を否定するものではありませんが）、当地での専門医プログラムを経てキャリアを積んだ専門医です。したがって、静岡県の地域医療を維持、そして発展させるためにも、今回、本県で専攻医が減少した要因を明らかにし、さらにその対策を講じるよう、県の行政、一般病院、そして本学が今まで以上に一致協力して、知恵を絞る必要があるのではないかと思います。

※専攻医：新専門医制度のプログラムに参加して、専門医取得のための研修を行う医師

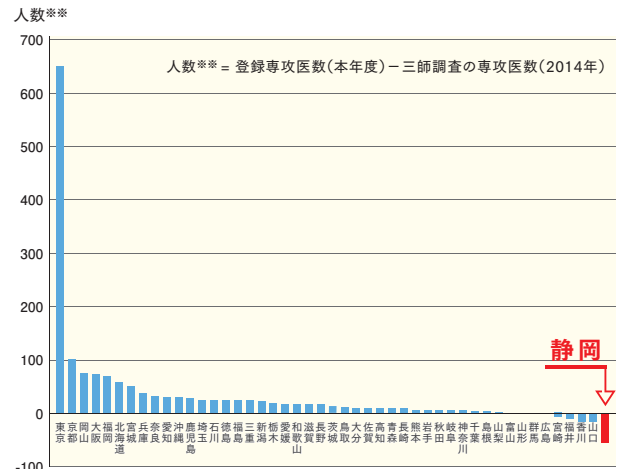


図1 各都道府県の専攻医数の変化 — 2014年度三師調査との比較 —

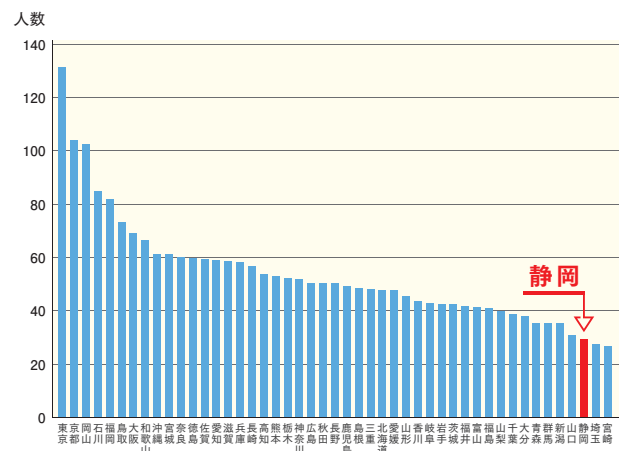


図2 各都道府県の専攻医応募人数（/100万人）

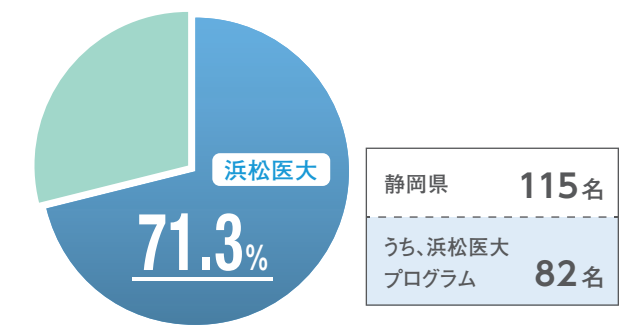


図3 県全体の専攻医応募者数における浜松医大の占める割合

目 次

トピックス ————— 1-3

- “新専門医制度”がはじまりました 1-2
- 新任役員・副学長の紹介 3

研究最前線 ————— 4

- 世界初 自閉スペクトラム症への
オキシトシン経鼻スプレーの治療効果を検証しました。

新任職員の紹介 ————— 5-7

学会賞等受賞 ————— 8

講座/研究室紹介 ————— 9-10

海のむこうで ————— 11-12

- リングベルグ城でのリトリート 11
- ニカラグアでのボランティア活動 12

大学ニュース ————— 13-20

- 各種行事 13-14
- サークル活動の記録 15
- サークル紹介 16
- 国家試験合格状況 17
- 第112回医師国家試験大学別合格状況 17
- 平成29年度卒業生・修了生の進路状況 18
- 平成30年度入学者選抜試験実施状況 19
- 留学生の紹介 20

卒業生は今 ————— 21-22

- 思い通りにはならないけれど 21
- 仕事も趣味も今よりレベルアップを
目指すからこそ面白い 22

表紙の写真

平成30年1月に総合人間科学・基礎研究棟が
完成しました。
講義実習棟と渡り廊下で繋がっています。

平成30年9月撮影





New Executive Directors Vice Presidents

新任役員・副学長の紹介

Introduction



理事(企画・評価担当)・副学長

渡邊 裕司

本年4月から理事(企画・評価担当)・副学長を担当することになりました渡邊です。どうぞよろしくお願い申し上げます。私は、1983年に北海道大学医学部を卒業後すぐに浜松医科大学内科学第三講座に入局し、研修医として医師のスタートをきりました。2年間ドイツに留学しましたが医師としての前半15年間は循環器内科医として内科学第三講座に、その後の20年間は臨床薬理学講座に在籍しており、浜松医科大学で研究、診療、教育の場を得られたことを心から感謝しています。今後は与えられた職務を通じ、お世話になった浜松医科大学の発展に、微力ながら全力で取り組んでいきたいと考えています。

さて、企画・評価担当理事としての職務内容は、内部統制、中期目標・中期計画・年度計画、業務実績報告、大学評価、自己点検評価、評価改善、労務管理、人事、将来構想、社会貢献に関することなど多岐にわたります。私としては、働き方の改革を含め、職員各位が気持ちよく、前向きに仕事ができる環境を整備することがまず重要であり、そのような職場環境の整備や、業績の公正な評価が、浜松医科大学が社会や地域からの期待に応え、大学のミッションを果たすことにつながると考えています。皆様には今後とも、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



理事(財務担当)・事務局長

田中 宏和

本年4月より、前田さんの後任として理事(財務担当)・事務局長に就任いたしました。前職は、約30年ぶりに京都へ戻り、私の生まれ育った出身地であります京都大学医学部附属病院の事務部長です。

浜松は、光を用いた研究や開発に多くの成果をあげている様々な機関や、光技術に挑戦する企業が集まっており、長年光科学と光産業の発展をリードしてきました都市という認識をしております。

私は、一番最初の部長職が静岡大学であり三年間静岡に住んでおりましたので、仕事の関係でたびたび浜松へ訪れておりました。そのため、多少の土地勘があり懐かしさも感じております。

浜松医科大学は静岡大学とともに、地域の知の拠点としての機能をさらに強化するため、大学統合・再編を計画しております。さらに、教育研究等の質の向上を図るとともに、地方自治体・産業界との連携強化による地域活性化、国際競争力強化により経営改革の促進をめざし、就任早々、日々奮闘しております。

本学の将来構想の実現にあたり、静岡大学との協議において、様々な問題等に直面することと思われれますが、学長の強力なリーダーシップの下、「建学の理念、目的及び使命等を踏まえ、スピード感を持って業務を遂行する。」をモットーに、皆様のご協力をいただきながら努めてまいります。

ご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



副学長(病院担当)・病院長

金山 尚裕

本年4月より病院長を拝命いたしました。私は本学の1期生です。専門は産婦人科で中でも命を繋ぐ現場である産科、周産期医療を中心に仕事をしてきました。浜松医科大学医学部附属病院のミッションは患者第一の安心・安全な医療、社会・地域医療への貢献、良質な医療人の育成、高度な医療の追求、健全な病院運営の確立です。その中でも医療安全は病院の根幹です。医療安全管理室、感染対策室を中心に職員の医療安全の意識をさらに高めソフト、ハード両面でさらなる充実を図って行く所存です。教育に関しては院長としてまた卒業生として良き医療人の育成に一生懸命取り組む決意です。特定機能病院として高度な医療を行うことも求められています。最近の本院で増加している診療内容としてロボット支援手術・ハイブリット手術、放射線療法、化学療法、救急医療、ハイリスク妊娠分娩などがあります。これらに対応すべく機能強化棟の建設計画をしっかりと進めて浜松医科大学のさらなる飛躍に繋がたいと思っています。大学病院には様々な課題がありますが、精一杯努力致しますので皆様のご支援をよろしくお願い致します。

研 究 最 前 線

Breaking Research

世界初 自閉スペクトラム症への オキシトシン経鼻スプレーの 治療効果を検証しました。

今回の研究は、責任研究者として東京大学、金沢大学、名古屋大学、福井大学との医師主導臨床試験(Japanese Oxytocin Independent Trial: JOIN-T)を行い、自閉スペクトラム症(ASD)中核症状に対する初の治療薬として期待されるオキシトシン経鼻スプレーの有効性と安全性を世界で最初に検証しました。国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)脳科学研究戦略推進プログラム「精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究:発達障害研究チーム(拠点長:名古屋大学・尾崎紀夫教授)」と『臨床と基礎研究の連携強化による精神・神経疾患の克服:発達障害・統合失調症研究チーム(チーム長:山末)』の成果です。

ASDの中核症状である、(1) 対人場面でのコミュニケーションの障害、(2) 同じ行動パターンを繰り返して行なうことを好み、変化への対応が難しいという常同行動と限定的興味に対して有効な治療は確立されていません。一方オキシトシンは、授乳促進や子宮平滑筋収縮の他に、脳でも作用していることが指摘され、動物では親子の

絆を形成する上で重要で、人でも他者と有益な信頼関係を形成して協力しやすくなること、表情から感情を読み取りやすくなること、などが確認されました。さらに、複数の医師主導臨床試験を行い、ASDの方でオキシトシンの投与によって他者の感情を理解する方法やその際の脳活動などが改善したことなどを報告し(http://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/press_archives/20131219.html)(http://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/press_archives/20150904.html)、その有効性の確認のため、このJOIN-Trialを計画しました。

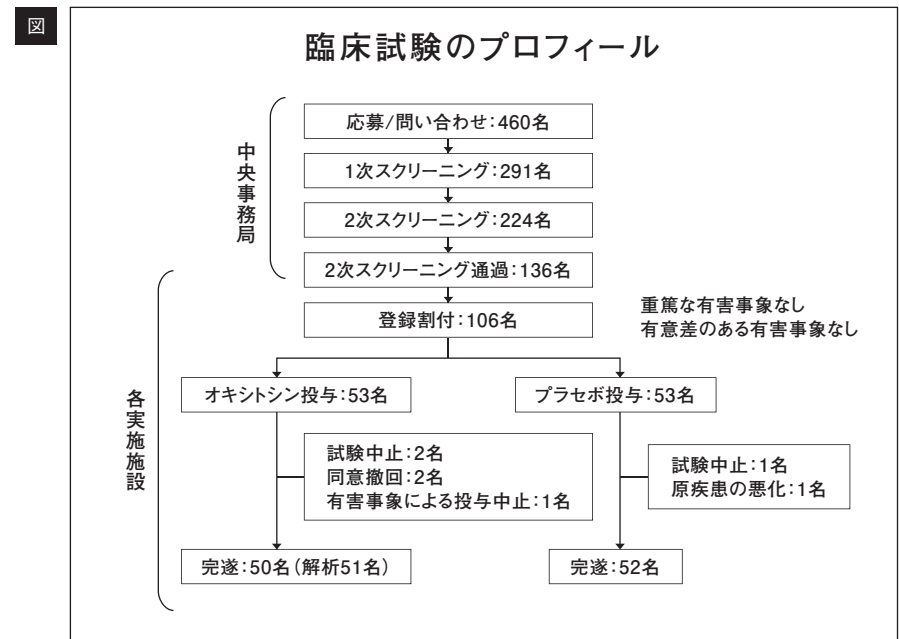
試験では、登録割付した106名の成人ASD男性の方のうち脱落例を除き、オキシトシン投与群51名とプラセボ投与群52名を解析対象としました。両群で出現頻度に有意差のある有害事象はありませんでしたが、オキシトシン投与開始後に乳腺腫瘍が出現して投薬中止し、中止後速やかに腫瘍が消退した方が1名いました。この方は男性乳がんの家族歴を有していました。(図)

主要評価項目である対人場面の振る舞いから評価した対人コミュニケーションの

障害について、オキシトシン投与前後で有意に軽減したものの、プラセボ投与でも同様に軽減し、群間差は認めませんでした。オキシトシン血中濃度については、プラセボに比べてオキシトシン投与で有意に上昇しました。オキシトシン投与前後の対人コミュニケーション障害の軽減は血中濃度上昇と相関する傾向を示した一方で、プラセボ投与前後の対人コミュニケーション障害の軽減は血中濃度変化と相関しませんでした。副次評価項目では、自閉スペクトラム症のもう一つの主な症状である常同行動と限定的興味と、視線計測で検討した、話しかけられる際に相手の目元を見る時間の比率が、プラセボに比べてオキシトシン投与で有意に改善しました。

これらの結果から、オキシトシンによるASDの主な症状の改善は期待されるものの、対人場面に現れる対人コミュニケーションの障害そのものに対する有効性を示す上で、1.プラセボ効果の制御、2.血中濃度上昇を十分に高める、3.連続反復投与で生じうる効果減弱を回避する、4.評価項目の客観性を最大限にする必要性、などの検討事項を抽出しました。

その後、オキシトシン経鼻スプレーを初の自閉スペクトラム症中核症状治療薬として実用するため、帝人ファーマ社と共同して十分な血中濃度上昇が得られる様に改良した新規経鼻製剤を開発し、上記検討事項を解消する医師主導治験を計画し、本年2月27日に開始しました(AMED治験推進事業)。



発表論文(※責任著者)

Yamasue H*, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuh T, Owada K, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H: Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder: a randomized clinical trial. Molecular Psychiatry. 2018 Jun 29. doi: 10.1038/s41380-018-0097-2. [Epub ahead of print]

NewStaff Introduction



総合人間科学講座(生物学)
教授

前田 達哉

【専門分野】細胞内シグナル伝達の分子細胞生物学

本年5月1日付で総合人間科学講座(生物学)教授を拝命いたしました。

これまで、東京大学理学部、同大学院、ダナ・ファーマーがん研究所、癌研究会 癌研究所(現・がん研究所)、東京大学 分子細胞生物学研究所(現・定量生命科学研究所)と研究の場を変えながらも、一貫して細胞内シグナル伝達に関する研究に携わってきました。現在は、ラパマイシン(シロリムス)の標的であるmTORC1キナーゼ複合体の活性制御機構を主要な研究テーマとしています。

mTORC1は細胞成長と代謝を制御している

シグナル伝達因子です。栄養や増殖因子などを感知して活性化されたmTORC1は、さまざまな基質のリン酸化を介して同化を促進します。さらに、発生・分化・神経機能・癌・免疫・生活習慣病・老化などへの決定的な関与が示されて、幅広い関心を集めるようになりました。私も本学の恵まれた環境を活かし、先生方との共同研究を通じて研究の新しい展開を模索したいと考えております。

教育においては、入試で生物を選択していないことも多い新入生諸君に、生物学の考え方と面白さを伝えることを目指します。ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

【専門分野】法中毒学/法医学

平成30年4月1日付で本学法医学講座の准教授を拝命いたしました。

私は福島県出身であり、平成19年に本学を卒業し2年間のスーパーローテイトによる臨床研修を行いました。研修修了後は本学大学院で法医学を専攻し、学位取得後にそのまま当講座で職を得て今日に至っております。

私の専門は法中毒学であり、薬毒物の高感度分析方法の開発・改良、薬毒物の死後体内分布の解明、自然毒(毒キノコなど)の分析を主なテーマとして研究に取り組んでおります。この分野のトピックとしては危険ドラッグの流行があり、当

講座でも多くの中毒事例を経験いたしました。

法医学業務は解剖の他にも裁判所での証言、公的機関・法曹関係者への助言、警察学校での講義など多岐に亘り、警察とともに実際の死体発見現場や警察署に赴いて検案を行うこともあります。

研究と実践とを両輪として、培った解剖・分析の経験や知見を今後の業務や研究に生かし、これを更に応用・発展させていきたいと考えております。

研究・死因究明のみならず、法医学人材の確保・育成にも力を入れて行きたいと思っておりますので、今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。



法医学講座 准教授

長谷川 弘太郎



臨床医学教育学講座
特任教授

五十嵐 寛

平成30年4月1日付で臨床医学教育学講座特任教授を拝命いたしました。群馬県出身で、昭和63年卒業の本学9期生です。

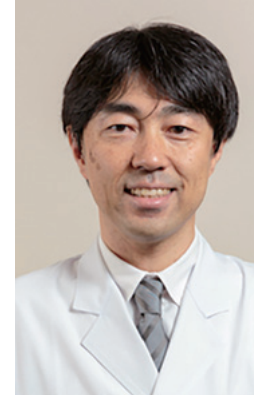
本学麻酔科に入局し、静岡県立総合病院などの関連病院勤務を経て、平成17年に麻酔科蘇生科講師、平成23年には聖隷福祉事業団からの寄附講座である臨床医学教育学講座開設にあたり特任准教授として採用されました。

医学教育に興味を抱く事になったのは、故佐藤重仁麻酔科蘇生科前教授の薦めで平成12年に米国フロリダ大学とボストンのBrigham and Women's hospital でシミュレーション教育の研修を受けたことに始まります。その後、この時同行

したメンバーを中心に日本医学シミュレーション学会の設立という貴重な経験をすることができました。シミュレーション教育への興味は徐々に教育学に、また、その背景にある行動科学や教育心理学に広がっていき、現在は医学概論Ⅰ、Ⅱでコミュニケーションやプロフェッショナルイズムの授業や実習を担当しております。

本講座開設以降、医学教育に関する様々なことを学ぶ機会をいただきました。今後は学んできたことを本学に還元させていただければと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



周術期等生活機能支援学講座
特任准教授

平松 良浩

平成30年4月より周術期等生活機能支援学講座の特任准教授を拝命いたしました。平成8年に本学を卒業し外科学第二講座に入局後、本学ならびに関連病院で消化器外科、特に上部消化管外科分野を中心に研鑽を積んでまいりました。平成19年より今野学長のご高配により藤田保健衛生大学で低侵襲外科(内視鏡外科、ロボット外科)について学ぶ機会をいただき、平成22年に本学に戻って参りました。患者さんにやさしい外科治療を心がけ、内視鏡外科手術、ロボット手術、肥満減量外科手術などを導入してきましたが、周術期リハビリテーションや栄養管理の重要性を痛感しました。平成29年より竹内教授を迎え、周術期管理チームHOPE(Hamamatsu Perioperative Care

Team)の立ち上げに関わり、様々な職種の方々と協力して周術期治療に従事している中で、本職に就かせていただいたことは大変有り難く感謝しております。

本講座は静岡県による寄附講座で、周術期をはじめとした患者の生活機能維持に着目し、入院をきっかけとした身体機能や認知機能の低下を防ぎ、健康寿命の延伸ともに、「その人らしい生活」を維持したまま地域での生活に復帰できる医療の実現を図ることを目的としています。皆さまのご指導ご協力のもと、本学および静岡県に少しでも貢献できるよう尽力していきたいと考えておりますので何卒よろしくお願い申し上げます。



地域医療支援学講座
特任准教授

竹内 浩視

平成30年4月1日付けで静岡県の寄附講座として設置された地域医療支援学講座の特任准教授を拝命いたしました。

昭和62年に本学を卒業し小児科学講座に入局後、本学大学院在学中を含む14年間は県内の医療機関で勤務しました。当時お世話になった皆様には今でも大変感謝しております。

平成13年から2年間は厚生労働省本省で勤務し、健診事業や介護保険制度、各種厚生統計に関わりました。行政の仕組みを知り、保健医療福祉を幅広く学ぶことができた貴重な経験でした。

その後、平成15年から15年間は静岡県職員として、県庁や保健所等で勤務しました。平成21年

のインフルエンザ・パンデミックや平成23年の東日本大震災での岩手県への派遣経験が印象深く残っています。各地で本学出身の先生方に出会い、本学教職員の皆様にもご支援・ご協力をいただきました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

本講座の設置目的は、本県における医師不足・地域偏在の解消と地域医療構想の実現に向けた質の高い医療提供体制の構築、医師不足地域での医師研修体制の充実です。壮大な目標ですが、これまでの経験を基に取り組みますので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

【専門分野】小児看護学

平成30年4月1日付で臨床看護学講座(小児看護学)の准教授を拝命致しました。私は、愛知県出身ですが、浜松在住歴は25年以上になります。本学附属病院や浜松市発達医療総合福祉センターで看護師として勤務したのち、平成19年より臨床看護学講座の助教として着任しました。本学ではすでに10年以上お世話になっておりますが、責務の大きさに身の引き締まる思いです。

現在は、看護師を対象とした発達障害に関する障害理解教育を研究テーマに取り組んでおります。最近発達障害の特性について知られるようになってきましたが、発達障害のある子どもたちが

医療を受ける際に感じる苦痛や困難を緩和し、医療ニーズに応えるための看護について考えていきたいと思っております。

小児看護領域は、看護系大学が増えている中で実習環境の確保が難しい領域といわれておりますが、本学は附属病院や、大学から徒歩圏内の保育園で実習をさせていただいており、大変恵まれた環境であると感謝しております。今後も本学の研究・教育・地域への貢献ができるよう尽力していきたいと思っておりますので、皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



臨床看護学講座 准教授

坪見 利香

New Staff Introduction



光先端医学教育研究センター
ナノスーツ開発研究部 准教授
河崎 秀陽

【専門分野】病理学、ウイルス学、ナノスーツ

平成30年3月より光先端医学教育研究センターナノスーツ開発研究部の准教授・部長を拝命いたしました。平成7年に本学卒業後、旧・病理学第二講座(現・再生感染病理学講座)に入局し、筒井教授(現・名誉教授)の指導のもと、研究と病理診断の両方に研鑽してまいりました。研究では、主にサイトメガロウイルスの中枢神経系先天異常を引きおこす機序の解明にとりくみ、岩下教授就任後も多くの人々からのサポートをもらいながら自由に研究をさせていただくことができました。研究中にウイルス粒子の動態を観察したいと針山教授(現・特任教授)の門を叩いたのがナノスーツ研究との出会いでした。

現在、ナノスーツ研究は針山先生指導のもと、生物・医学分野のみならず工学分野へと応用範囲が広がっています。そして多くの大学・企業との共同研究や、JSTのSTART事業採択を受けてのベンチャー企業設立計画が進むなど、産学官を巻き込んだダイナミックな展開がなされています。来年には、現在建設中の医工連携拠点棟の5Fに新拠点を構える予定です。

大学にある優れたシーズをいかに産業に繋げることができるかという大きな課題が課されている昨今、ナノスーツ開発研究部が浜松医科大学の旗振り役を担えるように尽力したいと思っています。今後とも、皆様のご指導ご協力をお願いします。



医療安全管理室 特任准教授
鈴木 明

平成30年4月1日附属病院医療安全管理室特任准教授を拝命いたしました。

愛知県出身で平成3年に本学卒業後、県内の病院並びに本学附属病院で麻酔科医師として診療を行い、平成23年4月から附属病院医療安全管理室に新たに設けられた医師リスクマネージャーとして病院全体の患者安全に関わる業務を担当しています。

十数年前から他業種の安全管理手法が医療に導入され、業務マニュアルが整備されたり、インシデント事例をきっかけに業務改善が進められたりと多くの進歩がありました。しかし、患者に合わせて治療を行うという医療の複雑さや診療結果の

不確実性もあり、現在も現場スタッフの臨機応変な対応で患者の安全が守られているというのが正直なところです。

一方で院内には、患者安全に寄与しない無駄な業務手順も見られます。不要な手順を削減し臨機応変な対応ができる余裕を持てる環境にしていきたいと考えています。また、産学が連携して患者安全に寄与する生体情報モニタリング機器を開発したり、臨床現場の効率化や質向上のためにIT技術を活用したりすることも必要だと思っています。皆様にご協力いただくこともあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

【専門分野】医療薬学・薬物動態学

平成30年1月1日付で薬剤部の特任准教授を拝命しました。私は県内出身で静岡県立大学・同大学院へ進学し、薬剤師として大分医科大学(現・大分大学)の赴任を経て、本学には平成15年に着任しました。これまで薬剤師として、実務を行う傍ら、大学病院での診療環境の中でヒトを対象とした医薬品の適正使用に関わる臨床薬学研究に携わってきました。

主な研究テーマは、生体試料中に含まれる医薬品の高感度分析法の開発とそれを利用した薬物動態学研究になります。医薬品の有効性や安全性の評価・予測には、生体中での医薬品の動きを定

量的に捉えることが必要となります。それらの定量化された情報に基づいて、医薬品の適正使用のための薬物動態や臨床効果の個人差要因の解明を行っています。最近では、分子標的薬やバイオ医薬品の適正使用に関わる研究にも取り組んでいます。

私の研究テーマに関しては、実臨床における医薬品の有効性や安全性を評価しており、研究活動を遂行する上で臨床講座との連携が必須となります。今後とも、薬剤師業務や研究活動を通じて、患者における医薬品の適正使用に貢献するとともに、本学における研究や医療人の人材育成に関わっていきたく考えていますので、何卒、ご指導ご協力をお願い申し上げます。

PRIZE WINNERS 学会賞等受賞

賞の名称	受賞年月日	受賞者	受賞内容(研究題目)
特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク 平成29年度学生による オレンジリボン運動 オレンジリボン大賞	平成30年 2月18日	看護学科 4年 中田 真由 塚本 彩花 栗田 夏野 看護学科 3年 村田 早希 宮野 綾花 稲葉 莉帆	浜松医科大学医大祭 ナーシングカフェ和におけるオレンジリボン運動活動報告
日本薬学会 第41回佐藤記念国内賞	平成30年 3月28日	薬剤部 特任准教授 内藤 隆文	患者情報の多面的評価に基づく薬物治療の適正化
日本内科学会ことはじめ 2018京都 優秀演題賞/指導教官賞	平成30年 4月14日	第三内科 医員 榊原 智晶	重症僧帽弁閉鎖不全症に対する外科的治療後にJ波症候群と診断し得た心室細動の1例
日本内科学会ことはじめ 2018京都 優秀演題賞/指導教官賞	平成30年 4月14日	第三内科 医員 松倉 学	進行性QT延長からTorsades de Poinntes (TdP)による失神を契機に診断に至ったAL型心アミロイドーシスの1例
第71回日本臨床眼科学会 学術展示優秀賞	平成30年 4月20日	眼科 医員 武内 宏樹	網膜色素変性症患者における自動車運転実態調査
第7回日本血液学会 東海地方会 優秀演題賞	平成30年 4月28日	第三内科 医員(専攻医) 中野 洸太郎	脾臓原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫にて発症したsarcoidosis-lymphoma syndromeの一例
日本TDM学会 第16回「IATDMCT学術大会」 派遣賞(海老原賞)	平成30年 5月26日	薬剤部 薬剤師 柴田 海斗	Relationships between serum cetuximab and biomarkers related to EGFR signal inhibition, and skin disorders in head and neck cancer patients.
日本TDM学会 第16回「IATDMCT学術大会」 派遣賞(海老原賞)	平成30年 5月26日	薬剤部 薬剤師 阿部 一樹	Simple and rapid LC-MS/MS method for quantifying nivolumab in human serum using an immobilized tryptic digestion coupled to IgG purification.
静岡産科婦人科学会春季 学術集会 奨励賞	平成30年 5月27日	生殖周産期医学講座 特任准教授 村林 奈緒	不妊治療施設に通院中の女性の抑うつと不安
第28回日本臨床工学会 BPA最優秀発表賞	平成30年 5月27日	医療機器管理部 臨床工学技士 鈴木 勘太	側弯症手術においてMEPのfalse positiveに波形導出部位と振幅が与える影響
第102次日本法医学会 学術全国集会 学術奨励賞	平成30年 6月7日	法医学講座 准教授 長谷川 弘太郎	薬毒物の死後体内分布に関する研究 —危険ドラッグ類を中心として—
第12回頭頸部癌基礎研究会 頭頸部癌基礎研究優秀論文賞	平成30年 6月13日	耳鼻咽喉科 講師 三澤 清	Epigenetic silencing of SALL3 is an independent predictor of poor survival in head and neck cancer. Clin. Epigenetics; 9:64.2017
第27回日本産婦人科 新生児血液学会 真木賞	平成30年 6月15日	大学院医学系研究科(博士課程) 4年 産婦人科学講座 小田 智昭	羊水が血液凝固線溶系に及ぼす影響 —ROTEM(Rotational thromboelastometry)を用いた解析—
第135回関東連合産科婦人科 学会総会・学術集会 若手優秀演題賞	平成30年 6月16日	産科婦人科 医員(専攻医) 戎野 志織	母体横隔膜ヘルニア合併症妊娠の1例
第9回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会 Best Investigator Award	平成30年 6月18日	産婦人科家庭医療学講座 特任研究員 鳴本 敬一郎	Genetic counseling in primary care in Japan: a mixed methods investigation
日本臨床薬理学会 第29回臨床薬理研究振興 財団賞 学術奨励賞	平成30年 7月2日	薬剤部 特任准教授 内藤 隆文	抗体医薬のTDMの普及のためのヒト血清中濃度測定の実験ワークフローの構築

講座・研究室紹介

平成30年1月に総合人間科学・基礎研究棟が完成しました。
総合人間科学講座(9つの分野)を紹介します。

1F

英語 English

Welcome to the department of English!
バックグラウンドも国籍も異なるメンバーが所属しています。
授業では、チームを作ってコミュニケーション活動を行いながら、
一般英語や医学英語(医学科)、看護英語(看護学科)を学びます。
各自のペースで学べるe-learningや、海外で医療ボランティアを体験できる国際サービス・ラーニングのプログラムも用意しています。
海外臨床実習前の英語の相談にもなっています。
世界に羽ばたけ浜医生!私たちはそんなみなさんを応援しています。

生物学 Biology

代謝制御にかかわる細胞内シグナル伝達を研究している教授(前田)、脊椎動物の視覚を研究している准教授(妹尾)、視覚生理学を専門とする教務員(山濱)、動物生理学を専門とする教務員(堀口)、視覚の比較生理学を専門とする技術専門職員(外山、化学・物理学と兼任)の5名体制で教育と研究に取り組んでいます。互いの得意な研究手法の面で助け合ったり、学内外の研究室と共同研究を行ったりしながら研究を進めています。

心理学 Psychology

“動機づけ”を主要な研究テーマとしています。勉学に意欲を見せる学生もいれば、そのようには見えない学生もいるのは何故か?なぜ多くの学生は部活や遊びだとやる気のでるのか?リハビリテーションに熱心に取り組む患者さんもいれば、そうでない患者さんもいるのは何故か?動機づけに関わる諸要因やその背景にある神経メカニズムについて実験的なアプローチを用いて研究しています。将来的には、研究の成果をやる気を制御するための教育や治療プログラムの開発に繋げていきたいと考えています。

別棟

情報医学 Biomedical Informatics

多角的に医療にかかわる情報機器や手法についてハードウェアからソフトウェアまで、広く研究対象にしています。医療における多様な問題解決には医学と工学の密接な関係が望まれています。その関係をAIなど情報学的手法でハードとソフトをハイブリッドに融合することも可能になってきています。臨床経験に基づき製作された医用機器は多くありますが完全性を保証することはできません。医療は不確定要素を含みながらも高い信頼性に対応した情報システムの構築も重要だと考えています。

2F

倫理学 Ethics

研究テーマは四区分されます。第一は、超高齢社会の老い方を問い直す「老成学」。「若者世代のために／若者世代とともに」活動する「コミュニティ関与型」老人観を提唱。第二は、近代日本哲学史の研究。この反省の上に21世紀文明に応える倫理学を構想中です。第三は、コミュニケーションの対立を媒介する研究。QOL尺度論はその一環。第四は、「人はなぜ四区分するのか」を考える区分と変換の哲学。以上の四テーマの基礎にあるのがコミュニケーションの「四区分連関」構造です。子細は研究室で。

物理学 Physics

物性物理学と生物物理学の2分野の研究に取り組んでいます。最近では、両分野とも研究分野の裾野が広がってきています。物性物理学が、物質科学、化学、情報理論等の様々な分野の発展に深く関わり、生物物理学が、生命活動の解明に貢献することが期待されているからです。本教室でも、医用工学、有機分子・バイオエレクトロニクス、生体高分子物性、バイオインフォマティクスなどの境界領域の研究にも力を入れ、医学の発展への貢献を目指しています。

数学 Mathematics

主担当科目は数理科学I、II、情報・統計学等の数学関連科目です。講義は「論理的思考力の育成」「基礎力の定着」等を主目的として行っています。また、前述の目標を達成するために授業は演習中心の講義となっているのも特徴です。所属教員の研究分野は整数論、中でも特に「数論の対象の平均値定理」「各種ディリクレ級数の解析的性質の考察」等の解析的整数論の研究を主に行っています。直近では約数問題の各種の拡張や、ゼータ関数の微分から生じる各種関数の近似関数等式の研究に取り組んでいます。

化学 Chemistry

3F

法学 Legal

医療法学を中心に、医療安全、医療倫理、医療管理学等隣接分野も含め社会医学領域の研究を行っています。研究室の特徴は、学生のうちから積極的に研究に関わるよう指導している点です。毎年、医学教育学会、公衆衛生学会、内科学会等にて口演、ポスター発表を行い、優秀演題賞を受賞するなど成果をだしています。社会にある様々なテーマについて、社会医学的手法を用いた研究を行っておりますので、興味のある方は研究室にお越しください。

リングベルグ城での リトリート



器官組織解剖学講座 准教授
山岸 寛



▲ テーガン湖の全景



▲ リングベルグ城

ドイツ南部のテーガン湖は、ミュンヘンから車で約1時間の距離ということもあり、人気の高い保養地・高級住宅街として知られています。このテーガン湖近郊の丘の上にMax-Planckグループが所有しているリングベルグ城が建っています。リングベルグ城は元々個人所有の城でしたが、後継者がいない為、彼の死後1973年にMax-Planckグループに寄贈されました¹⁾。このお城は研究会を開催する目的として活用されており、3泊4日のスケジュールで年間100回リトリートが開催されフル稼働しています。Max-Planck関係者しか予約できないのに、教授クラスの研究部門長ですら予約困難で、約2年待ちだそうです。今回、2018年4月4～7日の日程で、留学時の恩師であるProf. Rüdiger Kleinが主催するリトリートに招かれ参加したので、紹介させていただきます。

Prof. Rüdiger Kleinはエフリンという神経

軸索ガイダンス因子研究で大変有名な先生で、私もボスドクとして2004年から7年近くお世話になりました。当時、新規ガイダンス因子としてFLRTファミリーを見出し、大脳皮質形成に重要な役割を果たしていることを報告しました²⁾。さて、リトリートに招待されたのは、彼の研究室のメンバー及び出身者で、血管研究で大変有名なProf. Ralf Adams(Max-Planck研究所)やリンパ研究のDr. Taija Mäkinen(ウプサラ大学)等、錚々たるメンバーが挙げられます。また、彼の友人や共同研究者も招かれ、Prof. Uwe Drescher(ロンドン大学)やProf. Yimin Zou(UCSD)など神経分野のトップサイエンティストが集まり、ちょっとした学会よりも豪華なのではないかと思う程でした。

研究会のテーマは「Big Questions in Biomedical Sciences」と題され発表が行われましたが、ディスカッションが白熱し、みんな大幅に予定時間を超過しました。その為、長い休憩時間が取れず、残念ながら大きなエクスカッションに行くことはできなかったのですが、皆で散歩して高台から眺めたテーガン湖は天気にも恵まれ素晴らしい景色でした。

今回のリトリートの目的はもちろん研究会ですが、もう1つの目的はRüdigerの60歳の誕生日を祝う為でもありました。最後の晩に開催された誕生日会では、



▲ リトリート参加者
(後列右から3番目が筆者、前列右から2番目がProf. Rüdiger Klein)

海のむこうで

Beyond the Seas

ニカラグアでの ボランティア活動



医学部医学科2年
土田 美友



▲ ニカラグアの元気な子供たちと



▲ 村でのボランティア活動

私は選択実習「国際サービス・ラーニング」でニカラグアに行き、ボランティア活動に行ってきました。国際サービス・ラーニングとはニカラグアで行うチーム研修のことで、外国の医療従事者と一緒に働いてボランティア活動をします。仕事内容としては、診察を待つ子供たちと一緒に遊んだり、薬を処方箋通りに袋に詰めたり、身長や体重の測定、衣服の選別などがありました。ニカラグアに行った時、私は1年生だったのであまり医学知識を持っていませんでしたが、直接医療行為を行わない仕事も多くあり、様々な体験をさせていただきました。

ニカラグアは、中央アメリカに位置するラテンアメリカの共和国家です。首都はマナグアで、公用語はスペイン語です。ニカラグアでは、アメリカ合衆国とニカラグアを拠点とする非営利団体「Corner of Love (COL)」がサン・ラモン地区へ医療提供しています。

今回は、COLの一員となってボランティア活動を4日間行いました。2日間は近くの村に向かって教会で診療所を開設し、初日と最終日は2015年にCOLがリマ川付近に建設した「Plaza de Bondad」の診療所で行いました。村での診療は私が想像しているものと大きく違いました。衛生環境が悪く、教会のため診療に必要な設備もほとんどありませんでした。日本はいつでも病院に行くことができ、綺麗で設備がしっかりしている診療所

で治療を行います。それに対して、ニカラグアではいつでも病院に行けるとは限らず、数少ない道具や薬でしか医療行為を行うことができないのです。そのような状況でもできることを精一杯やるスタッフの行動に心打たれました。

ニカラグアでは、COLで用意していた場所で寝泊まりしました。食事や洗濯などもすべてやっていただきました。ニカラグアでの食事は、アメリカ人が多く来るためアメリカで食べられるものが多く出てきましたが、ニカラグアでよく食べられるものもいただくことができました。また、COLで働くニカラグアの人もみな優しく親切で、とても頼りになりました。行く機会がほとんどないニカラグアでの生活は、とても貴重な体験になりました。

日本からニカラグアへの直行便はないので、ニカラグアに向かう前にアメリカに行きました。アメリカではCOLのリーダーであるターニャとネルソンの家に宿泊させていただきました。アメリカでは、ニカラグアで行うボランティア活動に必要なものを準備したり、シアトルで観光をしたりし

ました。わずかな時間でしたが、日本チームのメンバーだけではなく他のCOLのメンバーとともに過ごせたのでとても楽しかったです。

10日間、アメリカやニカラグアで他の文化に触れ、英語を実践的に使い、他国の医療をみるというとても濃い、素晴らしい経験をさせていただきました。国際サービス・ラーニングにご理解とご協力をくださった皆様に心から感謝申し上げます。この経験を忘れずに、これからも勉学に励み、さらに成長していきたいと思います。



▲ COLメンバーの集合写真

1) <http://www.schloss-ringberg.de/home>
2) Yamagishi et al., *EMBO J.*, 30: 2920-33, 2011

3月

3月1日(木) 国際交流のつどい

本学の外国人留学生・研究者がご支援いただいている地域の方々と交流するとともに、海外の協定校で実習した学部学生の体験発表等を行いました。



3月12日(月) 入学者選抜試験

平成30年度浜松医科大学入学者選抜試験(後期日程)を実施しました。



3月13日(火) 学位記授与式

平成29年度学位記授与式を行い、医学部191名(医学科119名、看護学科72名)、大学院医学系研究科博士課程21名、修士課程18名および論文博士6名に学位記を授与しました。

3月19日(月) 永年勤続者表彰式

永年勤続者表彰式を挙行し、永年にわたり医療並びに本学の教育に貢献された26名の方々に表彰状と記念品を授与しました。



3月23日(金) 新歓指導講話

「新入生歓迎に対するマナー・飲酒について」と題して岩下学生委員会委員長による講話を行いました。

3月26日(月) FD研修会

「大学で教える人のためのルーブリック評価入門」と題して大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 佐藤 浩章准教授による講習会を行いました。

平成30年度
4月



4月3日(火) 入学式

平成30年度入学式を行い、医学部186名(医学科115名、医学科2年次編入学4名、看護学科60名、看護学科3年次編入学7名)、大学院医学系研究科博士課程37名および修士課程15名、そして、今年度より静岡大学との共同教育課程「光医工学共同専攻」の博士後期課程3名が入学しました。

4月4日(水)～10日(火) 新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーション(ガイダンス、健康診断、合宿研修、情報リテラシー、福祉施設体験学習など)を実施しました。



4月24日(火) タマサート大学 チュラポーン 国際医学部と協定を締結

タイのタマサート大学チュラポーン国際医学部と皮膚科学分野における協力関係を強化するために協定を締結しました。

4月16日(月) Student Doctor称号付与式

医学科5年次生124名に「Student Doctor」の称号を付与しました。



5月

5月11日(金)～12日(土) 滋賀医科大学との交流会

滋賀医科大学において第43回滋賀医科大学との交流会が開催されました。2日間の熱戦の結果、10勝4敗2引き分けで、6年振りに本学の勝利で幕を閉じました。これで、本学の通算成績は、15勝22敗6引き分けとなりました。

5月26日(土)～7月29日(日) 東海地区国立大学体育大会

8大学による第67回東海地区国立大学体育大会(主管校:浜松医科大学)を行いました。

■総合成績
男子7位、女子7位
優勝: 準硬式野球部
2位: 硬式テニス部(女子)
3位: サッカー部

6月

6月4日(月)～15日(金) 授業開放

県内の高校生を対象に、平成30年度専門基礎科目等授業開放を実施しました。(参加者延べ455名)

6月7日(木) 開学記念行事

浜松医科大学開学記念日における記念行事を挙行し、約210名が出席しました。開学記念式典では今野学長による挨拶の後、バイオデザイン協会 理事、Program Director (U.S.) Japan Biodesign, Stanford Biodesign, Stanford University、メドベンチャーパートナーズリンク 取締役チーフメディカルオフィサー池野文昭氏による特別講演「シリコンバレーから学ぶ: 医工連携による医療機器開発」を行いました。続いて、感謝状贈呈式、浜松医科学シンポジウム表彰式を行いました。



6月13日(水) 知財セミナー「特許基礎ラウンド2018」

特許の基礎知識や、医学研究におけるラポノートの重要性と書き方、活用術について、職員を対象にセミナーを開催しました。

6月14日(木)・7月13日(金) English Café

留学生との交流促進を目的とした英語イベントを医学部学生が企画開催しました。学生・大学院生・研究者・教職員が参加し、充実した英会話を楽しみました。



7月

7月11日(水) 院内マジックショー

学生奇術部による院内マジックショーを開催し、患者さんとそのご家族の歓声や拍手で盛り上がりました。

7月13日(金) 病院サマーコンサート

学生管弦楽団によるコンサートを開催し、患者さんやご家族など多数の人が来場しました。



7月20日(金)～8月13日(月) 富士山衛生センターの診療補助

富士山8合目に夏季期間中開設する、富士山衛生センターの診療業務に医師と学生がペアを組み、交代で従事しました。

8月

8月4日(土)～20日(月) 西日本医科学生総合体育大会

第70回西日本医科学生総合体育大会(代表主管校:三重大学医学部)が行われ、44大学が参加しました。

■総合成績 13位
2位: 弓道部(男子)
弓道部(女子)
3位: ハンドボール部

8月21日(火) こころざし育成セミナー

医学部進学を目指す県内の高校1・2年生101名が「こころざし育成セミナー」に参加しました。金山病院長の挨拶の後、本学の3名の講師が、仕事の内容や医療の現状について説明しました。



9月

8月31日(金) FD研修会

「シミュレーション教育における効果的な指導法を学ぶ」と題して東京医科大学附属病院シミュレーションセンター長・看護学科長(副学長)阿部幸恵教授による研修会を行いました。

9月6日(木)・18日(火)・25日(火) 地震防災訓練に伴う事前講習会

災害時の初期診療や情報通信などについて事前講習会を行いました。

9月25日(火) 学位記授与式

大学院医学系研究科博士課程2名、論文博士4名に学位記を授与しました。



7月23日(月) 光医工学共同専攻開設記念行事

静岡大学・浜松医科大学光医工学共同専攻開設記念行事を挙行し、大学関係者ら約150人が出席しました。記念式典では、両学長の挨拶の後、カリフォルニア大学アーバイン校ベックマンレーザー研究所長 Bruce J.Tromberg 氏の記念講演「Engineering the Future of Medicine with Light」を行いました。

7月31日(火) 高校生1日ナース体験

市内の高校生25人が「1日ナース体験事業」に参加しました。高校生は看護師のユニフォームに着替え入院患者の環境整備やケアの介助を行いました。



7月31日(火)・8月2日(木) オープンキャンパス

医学科と看護学科のオープンキャンパス(大学説明会)を行いました。全国から延べ697人の高校生等が参加し、カリキュラムの特徴、入学者選抜方法の説明、模擬授業、在学生・卒業生の講演、個別相談などを行いました。

サークル活動の記録

平成29年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

準硬式野球部	●春季県内リーグ 3位 ●東海地区国立大学体育大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 3位 ●秋季県内リーグ 出場
男子硬式テニス部	●西日本医科学学生総合体育大会 3回戦敗退 ●静岡県学生テニス選手権大会 個人戦出場 ●斉藤杯 個人戦出場 ●東海地区国立大学体育大会 3位 ●東海医歯薬科学学生大会 出場
女子硬式テニス部	●東海地区国立大学体育大会 優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト8 ●西日本コメディカル学生大会 出場 ●東海医歯薬科学学生大会 出場
軟式テニス部	●春季東海医歯薬大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬大会 男女団体 決勝トーナメント 出場
男子バスケットボール部	●秋季東海医歯薬大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 4位
女子バスケットボール部	●春季東海医歯薬大会 出場 ●五大戦 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬大会 出場 ●西日本コメディカル学生大会 出場
女子バレーボール部	●近畿医歯薬女子バレーボール大会 出場 ●近畿医科学学生女子バレーボール大会 4位 ●西日本コメディカル学生大会 トーナメント戦 1位 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●東海医歯薬大会 出場 ●新人戦 出場
バドミントン部	●西日本医科学学生総合体育大会 女子ダブルス 8位 ●東海地区国立大学体育大会 男子 5位、女子 4位 ●秋季県内リーグ 女子2部 3位
サッカー部	●春季東海医歯薬学生大会 準優勝 ●東海地区国立大学体育大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト8 ●秋季東海医歯薬学生大会 優勝
ラグビー部	●東海北陸医歯薬ラグビー大会 3位 ●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト16
ハンドボール部	●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト8 ●関西・東海医歯薬リーグ 2部残留 ●西日本医歯薬科学学生ハンドボールリーグ ベスト8
剣道部	●浜北大会 出場 ●中部医歯薬剣道大会 男子団体 男子団体 準優勝 女子団体 出場 男子個人 準優勝 ●東海地区国立大学体育大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●関東医歯薬剣道大会 出場
空手道部	●東海地区国立大学体育大会 女子団体組手 優勝、男子団体組手 準優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会 女子個人形 優勝 ●和道会静岡県空手道競技大会 一般男子個人組手 準優勝、3位 ●杉浦錬成空手道競技大会 一般女子個人組手 準優勝 一般男子個人組手 3位 ●医大祭演武
ワンダーフォーゲル部	●富士山八合目の衛生センターにおける医療補助に従事
ヨット部	●浜名湖小春セーリングレース 運営協力 入賞 ●浜名湖チャンピオンシップセーリングレース 入賞 ●西日本医科学学生総合体育大会 ブラクティスレース 470級 14、15位 ブラクティスレース スナイプ級 14、15位 本レース 470級 11位 本レース スナイプ級 10位 ●学内試乗会 ●セーリング・チャレンジカップ 運営協力
漕艇部男子	●関西学生 新人 ナックルレガッタ 準優勝 ●中部学生選手権 新人男子舵手付きフォア 3位 ●静岡県選手権 一般男子舵手付きフォア 優勝、2位 男子ダブルスカル 優勝、4位 ●近畿医科学学生漕艇選手権 一般男子舵手付きフォア 3位 新人男子舵手付きフォア 優勝 男子ダブルスカル 準優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会メディカルレガッタ 一般女子舵手付きフォア 6位 新人男子舵手付きフォア 優勝
漕艇部女子	●中部学生選手権 女子舵手付きクオドルプル 2位 ●静岡県選手権 女子舵手付きクオドルプル 優勝、2位 ●近畿医科学学生漕艇選手権 女子舵手付きクオドルプル 優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会メディカルレガッタ 一般女子舵手付きクオドルプル 3位
弓道部	●中部ブロック医科学学生弓道大会 男子団体 3位、男子個人 6位、女子個人 5位 ●静岡県下学生弓道選手権夏季大会 男子団体 準優勝、3位、男子個人 4位、5位 女子団体 優勝、女子個人 3位 ●西日本医科学学生総合体育大会 男子個人 6位、女子個人 4位 ●全日本医科学学生体育大会王座決定戦 団体 3位、個人 5位

弓道部	●東海医歯薬科学学生弓道大会 男子団体 準優勝、男子個人 4位、女子個人 優勝 ●静岡県下学生弓道選手権春季大会 男子個人 優勝、3位 女子団体 準優勝、3位、4位
陸上競技部	●東海学生陸上競技対校選手権大会 女子 棒高跳 出場 ●西日本学生陸上競技対校選手権大会 女子 1500m 6位、女子 3000m 6位 ●西日本医科学学生総合体育大会 男子 110mハードル 4位、400mハードル 7位 女子 走高跳 7位、走幅跳 3位、円盤投 8位、ハンマー投 5位、フルード総合 5位 ●全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会 男子 110mハードル 準優勝 女子 1500m 6位、3000m 7位 ●秩父宮賜杯 西日本学生陸上競技対抗選手権大会 女子 棒高跳 7位 ●袋井クラウンメロンマラソン 女子 フルマラソン39歳以下 8位
水泳部	●西日本医科学学生総合体育大会 男子 200m平泳ぎ 3位 ●西日本コメディカル学生水泳競技大会 女子 100m背泳ぎ 2位、400m自由形 3位 200mフリースタイル 3位、200mメドレーリレー 3位 ●東海地区国立大学体育大会 入賞 ●中部学生短水路選手権 出場 ●中部学生選手権 出場
卓球部	●西日本医科学学生総合体育大会 団体戦 ベスト16、ダブルス ベスト8 ●西日本医歯薬学生卓球大会 ダブルス ベスト32 ●東海医歯薬科学学生卓球大会 シングルス ベスト16
合気道部	●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●医大祭にて演武
スキー・スノーボード部	●東海医科大学スキー大会 距離 2位、大学総合 3位 ●西日本医科学学生総合体育大会冬季大会 男子スプリント 9位、男子5km 21位
美術部	●医大祭にて作品展示 ●医大祭ステージ背景の看板制作 ●医大祭ポスター制作(デザイン)
茶道部	●医大祭にて出店 ●学校茶会参加
邦楽部	●医大祭でのなごみ演奏会開催
四つ葉	●浜松筋ジストロフィーの会へのボランティア参加 ●車イスの方の会「集まる会」へのボランティア参加 ●糖尿病サマーキャンプへのボランティア参加 ●清明寮での学習支援ボランティア
軽音部	●学食ライブ ●月例ライブ ●他大との交流ライブ ●医大祭ライブ ●東医音(東日本医学部の交流ライブ) ●卒業式謝恩会での演奏
管弦楽団	●第37回定期演奏会(アクトシティ ホール) ●YAMAHAでの依頼演奏 ●全日本医学学生オーケストラフェスティバル主管 ●本学附属病院、浜松日本赤十字病院及び遠州病院でのコンサート ●本学入学式、本学卒業式、学位記授与式、解剖体慰霊祭、医大祭における演奏
写真部	●オーケストラ部定期演奏会 撮影 ●医大祭 写真展示 ●附属病院 写真展示 ●学会や部活動の撮影
東洋医学研究会	●週2回の東洋医学関連の講義 ●ツムラ主催の漢方セミナーへの参加 ●東百会への参加による他大学との交流 ●医大祭への出店
奇術部	●本学附属病院院内マジックショー ●医大祭参加 ●福祉施設(ニチイケアセンター、デイサービス等)での公演 ●浜松調停協会の新年会でのマジックショー ●本学学生表彰受賞
つながり	●保健教育の実施 若宮保育園、みどり保育園、初生小学校放課後児童会、都田放課後児童会にて実施 ●医大祭への展示・子どもたちに「お医者さん体験」をしてもらう模擬診察を実施 ●性教育のピアエデュケーション ゆずりは学園、西遠女子学園にて実施
囲碁将棋部	●秋季中部学生将棋団体戦 B級 7位 ●中部学生将棋新人王戦 ベスト8
国際交流サークルHOPE	●IFMSA留学生の受け入れ オーストラリア、スペイン、ルーマニア、ブラジル(4名) ●モンゴルからの留学生と交流会参加 ●留学生とのランチミーティング参加 ●IFMSA留学への参加 カナダ、ポーランド、チェコ、エストニア(4名) ●Journal Clubへの参加 ●IFMSA-Japan日本総会への参加
うなぎの会	●臨床推論 医学雑誌の記事をもとに臨床の考え方を学ぶ ●論文抄読会 英語で医学を学ぶとともに論文の読み方を学ぶ ●チーム医療を学ぶ 静岡大学医療系サークル「しずめでい」との交流会を行う
災害支援サークルLuce	●救命技術の勉強会 ●附属病院での災害時訓練への参加(模擬患者、ボランティアセンター運営) ●新入生オリエンテーションでのBLS講習会のサポート ●ハイマちゃん地域活性化プロジェクトとして避難所体験を行う

漕艇部

設立
1976年

部員数
43名

活動日程

週3～6回(クルーごとで様々)

漕艇部の活動について

こんにちは、漕艇部です。漕艇部は週3～6日、朝の5:30～7:30に活動しています。ほとんどが初心者でのスタートですが、レギュラーというものが無いので、全員がレースに出ることができ、日頃の成果を大会で発揮できます。ボート部は、4年の夏で引退を迎えるのですが、現在、現役43人、引退25人と多くのメンバーで構成され、浜松医大の中でも大きな部活の一つです。漕艇部の活動は、クルーと呼ばれる5人ないし2人単位のチームで行われます。これは同じボートに乗るメンバーでもあり、練習頻度もこのクルーごとで決められます。クルーのつながりは、つらい練習をのり越えるごとに強くなります。支えあったり、鼓舞し



医学科4年

神谷 侑樹

CLUB

サークル紹介

管弦楽団

Orchestra

設立
1980年

部員数
67名

活動日程

週2回(木・土)練習

管弦楽団の活動について

こんにちは。管弦楽団、通称オケ部です。オケ部では現在、学食・部室での週2回の練習に加え、年1回の定期演奏会、7月と12月に浜松市内の病院にて行っ病院コンサートの他、入学式・卒業式・慰霊祭での演奏、医大祭での音楽喫茶の出店等の活動を行っています。部員は3歳から楽器を習っていた人から大学に入るまで楽譜を読んだことがなかった人まで様々ですが、指揮者の堺武弥先生をはじめとするプロの演奏家の先生方に指導していただき、4年または6年で十分に上達することは間違いありません。また、他大学や全日本医科学学生合同のオーケストラにも参加する



医学科3年

林 詩絵莉

あったり、そうやって切磋琢磨して、去年の西医体では、金メダル1つ、銅メダル1つ、入賞2つと成績を残すことができました。漕艇部はかつて日本1汚い湖と呼ばれた、佐鳴湖で活動しています。確かに今でも水は緑色ですが、懸命な浄化活動により水質が改善しているそうです。私たち漕艇部もその一環である「ヨシ狩りボランティア」に毎年参加しています。その結果、今ではワースト3を抜け出しました。これからも、地域の皆さんと協力していきたいと考えています。最後に、私たちがこうして活動できていることは、学校関係者の方々をはじめ、OBOG、地域の皆様のお陰であります。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。今しかできないこの部活に取り組めることに感謝しながら、これからも部員一同、精進していきたいと思ひます。



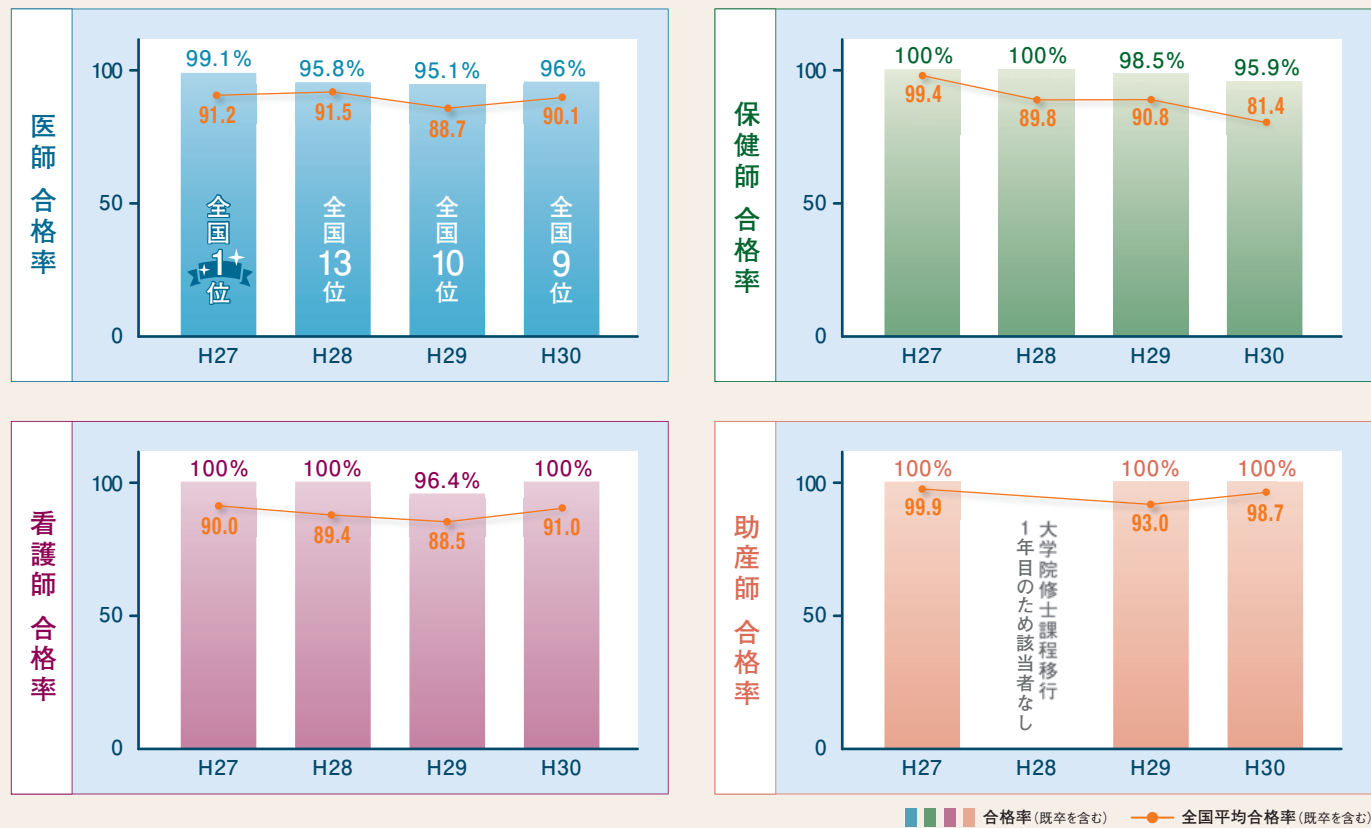
◀病院コンサートは親しみやすいポップスなども演奏します。

◀定期演奏会。1年間の集大成です。

長期休みやオフの期間にはパートごとで旅行に行ったりします。▶



国家試験合格状況



第112回医師国家試験大学別合格状況

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	128	127	99.2%
2	横浜市立大学医学部	87	85	97.7%
3	兵庫医科大学	118	115	97.5%
4	順天堂大学医学部	128	124	96.9%
5	慶應義塾大学医学部	116	112	96.6%
6	杏林大学医学部	137	132	96.4%
7	東京医科大学	110	106	96.4%
8	東邦大学医学部	109	105	96.3%
9	金沢大学医薬保健学域	125	120	96.0%
9	浜松医科大学	125	120	96.0%
11	東京慈恵会医科大学	122	117	95.9%
12	三重大学医学部	135	129	95.6%
13	福島県立医科大学	108	103	95.4%
14	東京医科歯科大学医学部	107	102	95.3%

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
15	大阪市立大学医学部	106	101	95.3%
16	佐賀大学医学部	98	93	94.9%
17	和歌山県立医科大学	115	109	94.8%
18	筑波大学医学群	122	115	94.3%
18	岡山大学医学部	122	115	94.3%
20	東北大学医学部	137	129	94.2%
20	信州大学医学部	120	113	94.2%
22	名古屋市立大学医学部	97	91	93.8%
23	旭川医科大学	109	102	93.6%
24	千葉大学医学部	107	100	93.5%
25	京都大学医学部	119	111	93.3%
25	札幌医科大学	119	111	93.3%
25	昭和大学医学部	119	111	93.3%
25	大阪医科大学	134	125	93.3%
29	北里大学医学部	118	110	93.2%
29	聖マリアンナ医科大学	118	110	93.2%

(既卒を含む)

平成29年度 卒業生・修了生の進路状況

医学科				卒業生 119人			
就職先等	内 訳	人数	(人)	就職先等	内 訳	人数	(人)
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	22	22	その他病院	JA静岡厚生連 遠州病院	3	32
	京都大学医学部附属病院	1			聖隷三方原病院	2	
	東京大学医学部附属病院	2	4		聖隷浜松病院	1	
	国立大学病院	東京医科歯科大学附属病院	1			静岡済生会総合病院	
横浜市立大学附属病院		3			静岡赤十字病院	2	
横浜市立大学附属市民総合医療センター		1	5		JA静岡厚生連 静岡厚生病院	1	
公立大学病院	名古屋市立大学病院	1			NTT東日本関東病院	1	
	昭和大学病院	1			トヨタ記念病院	1	
	慶應義塾大学病院	1	3		刈谷豊田総合病院	1	
私立大学病院	東京女子医科大学東医療センター	1			江東病院	2	
	労働者健康安全機構 浜松労災病院	1			彩の国東大宮メディカルセンター	2	
	国立病院機構 西埼玉中央病院	1	3		済生会横浜市南部病院	1	
国立病院	労働者健康安全機構 千葉労災病院	1			三井記念病院	1	
	磐田市立総合病院	7			JA愛知厚生連海南病院	2	
	浜松医療センター	8			湘南藤沢徳洲会病院	1	
公立病院	静岡県立総合病院	2			上尾中央総合病院	1	
	静岡市立静岡病院	5			川口総合病院	1	
	市立島田市民病院	3			中京病院	1	
	中東遠総合医療センター	1			東京都済生会中央病院	1	
	藤枝市立総合病院	6			豊田厚生病院	1	
	富士宮市立病院	1			名古屋記念病院	1	
	沼津市立病院	1			名古屋第二赤十字病院	1	
	静岡市立清水病院	1	46		名古屋掖済会病院	1	
	焼津市立総合病院	2			国家試験不合格	3	3
	藤沢市民病院	1			不明	1	1
	松戸市立総合医療センター	1			合計 119		
	茅ヶ崎市立病院	2					
	横浜市立みなと赤十字病院	2					
	横浜国立大学医学部附属病院	1					
	川崎市立市民病院	1					
	さいたま市立市民病院	1					
	さいたま市立中央病院	1					
	さいたま市立大宮病院	1					
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院	1						
さいたま市立大宮病院							

看護学科

就職先等	内 訳	人数	(人)	就職先等	内 訳	人数	(人)
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	32	32	その他病院	聖隷三方原病院	2	8
	国立大学病院	3	3		聖隷浜松病院	1	
	私立大学病院	2	2		豊橋ハートセンター	1	
国立病院	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	1	3		聖隷福祉事業団	3	
	国立精神・神経医療研究センター病院	1			海谷眼科	1	
	国立病院機構 甲府病院	1		国・県・市・健診センター	新潟市役所	1	
公立病院	豊橋市民病院	1	12	浜松市役所	1	2	
	静岡県立総合病院	1		進学	浜松医科大学大学院助産師養成コース	5	8
	静岡市立静岡病院	1			聖隷クリストファー大学助産学専攻科	2	
	共立蒲原総合病院	1			東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻	1	
	静岡県立静岡がんセンター	2			未定		2
	横浜市立みなと赤十字病院	1					
	神奈川県立こども医療センター	1					
	日本赤十字社静岡赤十字病院	4					
				合計 72			

大学院修士課程助産師養成コース 修了者 5人

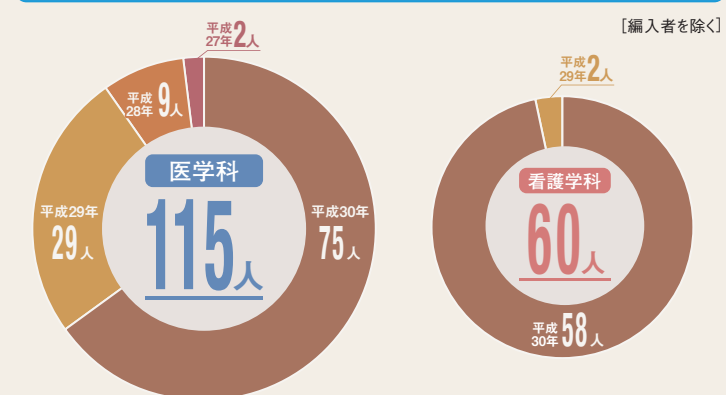
就職先等	内 訳	人数	(人)
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	3	3
私立大学病院	日本大学板橋病院	1	1
公立病院	焼津市立総合病院	1	1
合計 5			

平成30年度 入学者選抜試験実施状況

入学者選抜試験実施状況								
学科名	区分[募集人員]	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程 [75]	248 (104)		213 (85)	75 (32)	1 (1)	0 (0)	74 (31)
	後期日程 [15]	237 (94)	150 (53)	36 (12)	15 (4)	1 (1)	1 (0)	15 (3)
	推薦入試 [25]	99 (49)		95 (47)	25 (12)	0 (0)	0 (0)	25 (12)
	帰国子女 [若干名]	9 (5)		8 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	私費外国人 [若干名]	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計 [115]	593 (252)		352 (149)	116 (49)	2 (2)	1 (0)	115 (47)
	2年次編入学 [5]	135 (39)	40 (8)	35 (7)	5 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (0)
看護学科	前期日程 [35]	67 (62)		63 (59)	35 (35)	3 (3)	3 (3)	35 (35)
	推薦入試 [25]	75 (72)		75 (72)	25 (24)	0 (0)	0 (0)	25 (24)
	帰国子女 [若干名]	1 (1)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	社会人 [若干名]	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計 [60]	143 (135)		138 (131)	60 (59)	3 (3)	3 (3)	60 (59)
	3年次編入学 [10]	21 (16)		20 (15)	10 (6)	3 (1)	0 (0)	7 (5)

()内数字は、内数で女子を示す。

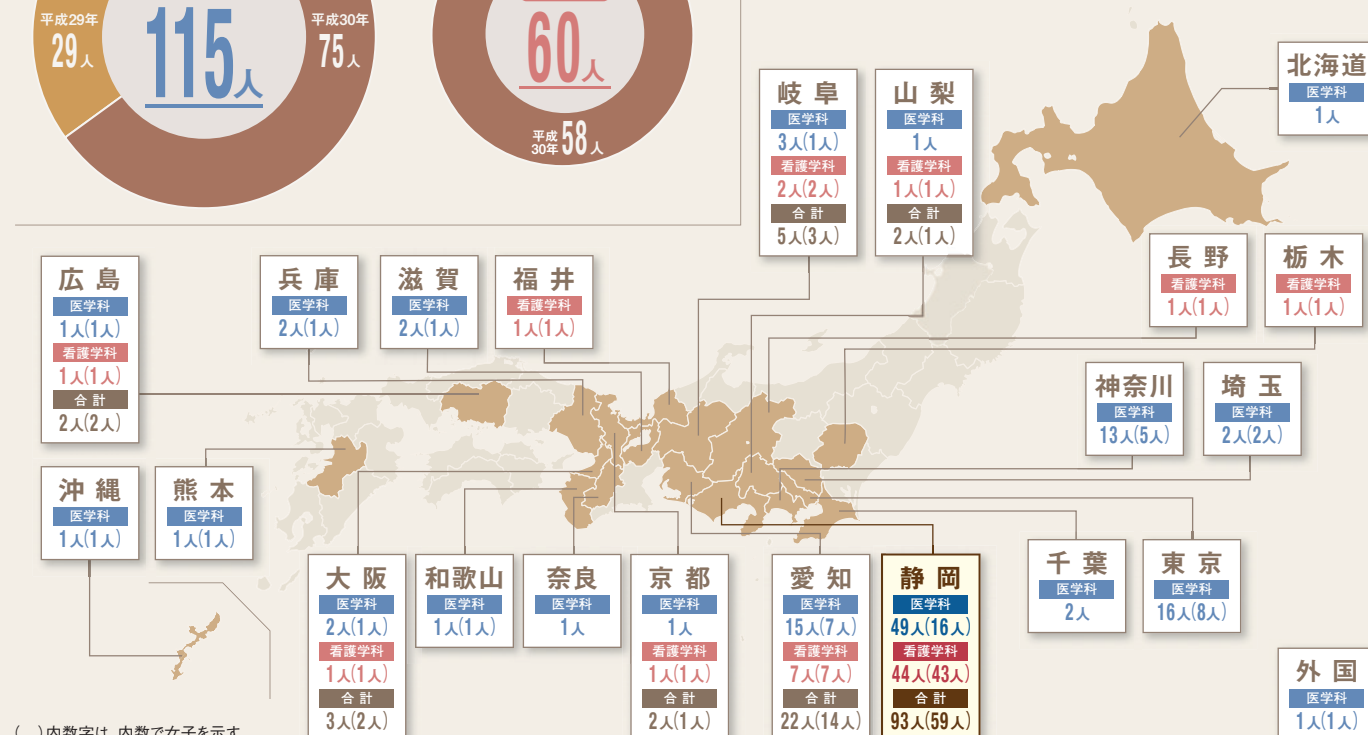
高等学校等卒業年別入学者状況



出身高等学校等所在都道府県別入学者状況

医学科 **115人(47人)** 看護学科 **60人(59人)**

総計 **175人(106人)** 【編入者を除く】



()内数字は、内数で女子を示す。



留学生の紹介

浜松は私の第二の故郷となりました

International Student Introduction

大学院医学系研究科(博士課程)4年 産婦人科学講座

沈 芸
(チン ゲイ)

出身国

中国



What did you study before coming Japan?

My hometown is Yangzhou City, an old tourist city full of historic feelings located in eastern coastal area of China. After finishing my 5-year school education in Medical College of Yangzhou University, I became a doctor of obstetrics and gynecology in a hospital near my hometown and started my medical career. During my first year as novice during the job, I met lots of couples with infertility problems, their distressed look and strong desire to have babies made the idea of learning more assisted reproductive techniques crept into our consciousness.

What made you to be in HUSM? How about your Research?

After a long time preparing, I send an email to Prof. Kanayama to ask for an opportunity, and luckily he accepted me and give chance to study in Hamamatsu University School of Medicine. With the help of Prof. Kanayama, now I am not only learning the skills of assisted reproductive techniques, but also became a member of his

research team of amniotic fluid embolism. Amniotic fluid embolism is one of the most serious causes of maternal death and recognized as a syndrome characterized by the abrupt onset of hypoxia, hypotension, disseminated intravascular coagulopathy (DIC), and uterine atony. The purpose of my study was to determine the mechanism in amniotic fluid embolism. Now our research team is holding a multicenter national trial and trying to figure out a new kind of treatment of AFE.

How is your life in Hamamatsu?

Now it is the fourth the last year I stay in Hamamatsu, the time I have been lived here made me feel like it already became my second hometown. Urban culture of Hamamatsu is ancient but full of vitality. Thousands years of history nurtured its warm, generous and kind-hearted citizen. The anxieties about the new abroad life in my first year disappeared very soon and I get used to life here.

What is your plan after graduation?

After finish my study here, I plan to go back to my country. With the knowledge and techniques I studied in Hamamatsu University School of Medicine, I will help more patients and more infertility families. With the experience of studying in Japan, I will become a bridge for the friendship between Japan and China.



▲金山教授(右)、
産婦人科学講座留学生
Urmi(上)、Divyanu(下)と筆者(左)

出身国はどんな様子ですか?

日本に来るまでは

どこでどんな勉強をしていましたか?

私の故郷は中国の東海岸に位置する揚州市です。揚州は歴史情緒あふれる古い観光都市です。



揚州大学医学院で5年間学んだ後、故郷近くの病院で産婦人科の医師としてキャリアをスタートしました。最初の一年間に、不妊に悩む多くの夫婦に出会いました。彼らの苦しみと赤ちゃんを強く望む様子を見て、さらに生殖補助医療を学びたいという気持ちになりました。

浜松医科大学での研究を選んだきっかけは?

研究テーマ、研究の成果はどうですか?

長い準備期間を経て、金山教授にメールを出しました。幸運なことに金山教授は私を受け入れ、浜松医科大学で学ぶ機会を与えてくださいました。今では金山教授のご指導をいただき、生殖補助医療について学ぶだけでなく、羊水塞栓症研究チームの一員として研究をさせていただいています。

羊水塞栓症はもっとも深刻な妊婦の死亡原因の一つであり、低酸素症、低血圧、播種性血管内凝固障害(DIC)、および子宮弛緩の突然の発症を特徴とする症候群として認識されています。

私の研究目的は、羊水塞栓症のメカニズムを解析することでした。現在、私たちの研究チームは、全国的な多施設共同治験を行い、羊水塞栓症の新しい治療法を見つけようとしています。

浜松での生活はどうか?

大変なことは?

浜松での滞在も4年目になり最後の年となりました。すでに浜松は私の第二の故郷となりました。

浜松の都市文化は古風な趣を残しながら、活力に満ちています。この地の歴史が、温かく、寛大で親切な人々を育てたのだと思います。最初に抱いていた新たな海外生活への心配はすぐに消え、ここでの生活に慣れました。

将来の夢や目標を教えてください。

浜松での勉強を終えたら自分の国に帰るつもりです。浜松医科大学で学んだ知識と技術を用いて、より多くの患者さんと不妊に悩む家族を支援するつもりです。日本での経験を活かし、日中友好の架け橋になりたいと思います。



▲第9回武田科学振興財団
薬科学シンポジウムに
聴講者として参加

卒業生は今



◀ 現在の職場。著者：下段右

▼ 入院中の面会様子。
ガラス越しに長男が絵本を読んでいます



医学科27期生
(平成18年3月卒業)
谷中 妙子

思い通りにはならないけれど

私は転科して医師を続けています。平成27年1月に誕生した次男には障害がありました。出産の喜びに浸る時間もなく、「私はこの子の親なのだから、もう医師として働けなくても育てなければ」、そんな気持ちでわが子の顔を見つめました。

次男は両側性完全唇顎口蓋裂で、口唇口蓋裂の中でも最重度に分類され裂が大きく哺乳ができませんでした。近隣の北里大学病院に駆け込み、両耳も殆ど聞こえてない、他にも水腎症や痙攣、色々な病気が見つかり大学病院を週に数日、多い時は連日受診する日々が始まりました。

妊婦健診で指摘されず何の準備もなしに出産後すぐの治療が必要で、実家近くの北里大学病院を治療拠点に選ばざるを得ませんでした。その時から覚悟はしていましたが育児と通院の毎日、当時の自宅がある埼玉に戻る余裕が無く、とはいえ産前からの実家生活が4ヶ月になり両親も疲れ始め、2歳の長男の預け先の問題もでてきました。そこで産後一度も自宅に帰ることなく、北里大学病院の近くに転居することにして仕事もそのまま退職しました。

実は分娩時に弛緩出血していたので産褥期の私自身の体調も優れませんでした。毎日必死でした。じつくと悲しみを受け止めて泣く時間もなく、食べる、寝る、育てる、連れていく(病院に)この4つだけでした。ふと、生後3ヶ月の難聴精査でABR(聴性脳幹反応)を行う際、睡眠導入剤を飲まされ無理矢理に眠らせられる次男が何とも不憫に思え、今までの想いが溢れ、涙が止まらず検査室の外で大泣きしてしまいました。

次男は、これまで3回(4ヵ月、1歳、2歳)の全身麻酔手術を受けました。今後も骨移植を含め残り

3回以上の手術があります。他にも毎週の言語訓練や歯列矯正、遺伝発達外来、耳鼻科など受診もいっぱいあります。でも、ちゃんと育てています。凄いですね、医療って…無我夢中で次男を育てる中で、医療に対してそんな思いがどんどん膨らみ、復職したくなりました。自らが患者の立場になり、患者さんご家族がどんなに不安な気持ちで受診しているのか、それでも心を強く持とうと頑張っていること、医療者の何気ない言葉が辛辣に胸に刺さること、ちょっとした温かい対応に救われることがあること、闘病生活をして初めて本当の意味で実感できました。

循環器専門医取得後の次男誕生でしたが「今の君には循環器で上を目指すのは無理でしょう」とはっきりと言葉にされ、ショックでした。ですが、「君は家庭を支える軸になりなさい」として「内科医は範囲を広げないと駄目だよ」との言葉を頂きました。そうだ…今の状況で私なりに奮闘してみよう。

再び医師として働くことはもうないと思ったけれど、次男が2歳ちょっとの時に所属先の東京医科歯科大学循環器内科の教授が「幅広く内科を勉強してきなさい」と、北里大学病院内分泌代謝内科の教授宛に推薦状を書いて下さいました。新しい診療科で、新しい職場で、知っている人は1人もいませんでしたが、それでも新しい分野を勉強する喜びはひとしおでした。大学で1年弱を過ごし、現在は関連病院へ常勤医として出向中です。まだまだ知識不足、経験不足で即戦力と言えるような状態ではありません

んが、人と同じでなくてもいい、継続していれば確実に実になると信じて、楽しみながら仕事をしています。以前よりも医師として働くことが好きになりました。仕事を「こなす」というよりも、患者さんの「力になるんだ」という意識でする様になりました。

休職中に実家の近くに家を建てました。夫の両親にも手伝いに来てもらうこともあります。産まれてから大変な思いも沢山ありましたが、嫌なことばかりではありませんでした。人のご縁を感じたり、医療の凄さを実感したり、新しい分野を勉強できたり、患者さん側の気持ちになれたり、…家ができたり。もし次男が「普通に」生まれていたら、一生感じられなかったことかもしれません。

保育園、幼稚園を何度も変わり、今もお預かりばかりですが小さいなりに理解して笑顔で頑張ってくれる長男は、我が家の太陽です。そして次男は「おくちくっついてないけど 中かない」と強く逞しく育ってくれています。

思い通りにならないこともあるけれど、幸せな未来は一つだけじゃない。



▲ 我が家の集合写真

病棟での集合写真(筆者は前列左から2番目)▶

▼ 看護師特定行為研修修了証



仕事も趣味も今よりレベルアップを目指すからこそ面白い

看護学科6期生
(平成16年3月卒業)
中西 祥子

私は今、静岡県浜松市にある医療法人社団一穂会西山病院グループで看護師長をしています。西山病院グループは療養型施設を中心に、老人保健施設やグループホーム、通所リハビリテーションやデイサービス、地域包括センターの運営などを行っています。

私が勤務しているのは、西山病院グループ内の療養型施設にあたる西山病院です。実をいうと私、西山病院に就職したときは高齢者看護のことをほとんど知りませんでした。しかし、様々な疾病をもつ高齢者が多く入院している療養型施設では多職種と関わる機会が多く、看護の分野だけでない広い視野が求められているように感じられました。疾病に関する医学的知識を学び直すだけではなく、介護や医療制度などにも興味を持つようになり、外部セミナーなどにも参加するようになりました。そんな中、看護部長から特定行為研修の受講を勧められました。仕事と勉強の両立は大変でしたが、なんとか無事に研修を修了し、7区分14行為の分野において修了証をいただきました。

特定行為研修を修了した後、私は介護療養型病棟から医療療養型病棟に異動し、同時に看護師長となりました。病棟の性格上、今までよりも医療処置に携わる機会や、病状が不安定な患者様の急変対応をする機会が増えましたが、

なぜ医師がその指示を出したのか、研修を受ける前に比べて医学的な根拠を理解できるようになった分、自分の看護にも自信が持てるようになりました。また研修修了後より、医師の監視下で定期的に気管カニューレの交換を行わせてもらっています。レントゲンや採血データから予測される病態や治療方法について医師と意見交換をしたり、院内採用されている薬剤について薬剤師から指導を受けたりと、師長業務を行いながらも医師の思考過程を理解するための経験を日々積み重ねてもらっています。

「師長さんはいつ寝てるの?」と病棟スタッフに不思議がられるほど忙しい毎日ではありますが、私のパワーのほとんどは趣味である演劇活動にあります。現在は浜松市内の社会人劇団に所属し、週2回の稽古と年2回の定期公演には必ず出演しています。高校時代に始めた演劇は、大学生になっても看護師になっても研修期間

であっても看護師長になっても、「辞める」という選択は一度もありませんでした。役者として舞台に立つ喜びは、一度経験してしまうと中々抜け出すことが出来ないもので困りものです。浜松市では毎年秋に演劇フェスティバルが開催されていて、私は平成20年と平成27年に女優賞をいただきました。体力づくりのために最近のトレーニングにはランニングも取り入れまして、春には初めてマラソン大会に出場しました。

仕事も演劇も、現状よりも上を目指すということは決して楽なことではありません。年齢を重ねるたびにその苦労は増していくように感じます。しかし現状に満足してしまったり、その時点で自分で自分の限界を決めてしまったような気がして、負けず嫌いな私は居ても立っても居られない気持ちになってしまいます。どんなに遅くても決して歩みを止めず、これからも一歩ずつレベルアップを目指して頑張っていきたいと思います。



▲ 平成30年6月公演の舞台写真



▲ 平成27年度浜松演劇人形劇フェスティバルにて女優賞を受賞した公演(筆者は左)

浜松医科大学基金へご協力いただき、 心よりお礼申し上げます。

浜松医科大学基金の目的

平成28年7月に、教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、「浜松医科大学基金」を設立しました。
「浜松医科大学基金」を通じて、安心して医学・看護学の教育・研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を安定的に提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。
浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。

寄附者ご芳名

平成30年2月から平成30年8月までにご寄附いただいた方で、お名前公表をご承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。
なお、本学職員につきましては割愛させていただきました。

個人

天方 啓二 様 阪口 周吉 様 戸田 準一 様
岩瀬 信二 様 佐藤 青史 様 名倉 康雄 様
大木 俊夫 様 佐野 尚男 様 根本 忠弘 様
加陽 直実 様 高木 正作 様 藤田 道也 様
河崎 孝弘 様 高橋 清夫 様 箕岡 眞子 様
河田 光弘 様 滝浪 實 様 谷島 康司 様
小林 隆夫 様 竹内 宏一 様 山下 富雄 様
小松 明 様 田村 直顕 様 山田 久仁夫 様
近藤 宣征 様 津幡 佳伸 様 山中 寿夫 様

(本学職員 16名)

法人・団体等

アイビー眼科 様
一般社団法人 榛原医師会 様
いはら腎・泌尿器シャントクリニック 様
医療法人社団あゆみ会 まさふみクリニック 様
医療法人社団 石井内科皮膚科医院 様
医療法人社団医心会 セのおクリニック 様
医療法人社団ケイスリーエム
まりこレディスクリニック 様
医療法人社団新風会 丸山病院 様
医療法人社団誠心会 浜北さくら台病院 様
岸本内科クリニック 様
サカイ脳神経外科 様
静岡県医師協同組合 様
静岡県医師信用組合 様
静岡県厚生農業協同組合連合会 様
浜北日中友好協会 様
浜松医科大学事務局親睦会 様
浜松医科大学同窓会松門会 様
浜松市医師会 様
安田クリニック 様
山口ハート国際クリニック 様
有限会社エスアイエス 様

ご寄附のお申し込みについて

電話、FAX、またはメール等でお名前とご住所をお知らせください。ご寄附に必要な書類をお送りいたします。浜松医科大学基金ホームページより、クレジットカードでのご寄附も受け付けております。

浜松医科大学基金ホームページ
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/>

お問い合わせ先

浜松医科大学基金事務局 総務課広報室・基金係
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1
E-mail kikin@hama-med.ac.jp

TEL 053-435-2107 FAX 053-435-2112

浜松医科大学建学の理念

第1に優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

浜松医科大学の目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

編集後記

今号も、新任役員職員の紹介、研究・教育・部活・卒後の報告など興味ある内容が盛りだくさんです。ご多忙にも拘わらず執筆いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。表紙の写真は新総合人間科学・基礎研究棟です。大学では引き続き新棟の建設工事および大規模な道路工事が行われています。新しいキャンパスの姿が楽しみです。施設面だけでなく、新専門医制度をはじめ大学をめぐる様々な環境は大きく変わっています。ニュースレターでは今後もアップ・ツー・デートな情報を紹介していきます。皆様からのご意見・コメント等お待ちしております。

ニュースレター編集委員 T.N.



浜松医科大学マスコットキャラクター

はんだやまっぴー

原稿募集

小誌をご覧になられた感想はいかがでしたでしょうか。
読後のご感想やご意見をお寄せください。また、各欄(「研究最前線」「海の向こうで」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など)への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。

職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。
誌面づくりに、ぜひご参加ください。

広報室 koho@hama-med.ac.jp

編集・発行

浜松医科大学ニュースレター編集委員会

発行日

平成30年10月1日

お問い合わせ

国立大学法人浜松医科大学 総務課 広報室
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代表)



平成30年8月開始

浜松医科大学オンデマンド

<http://od.hama-med.ac.jp>

f 浜松医科大学

<https://facebook.com/HamamatsuUniversitySchoolofMedicine>



f 浜松医科大学医学部附属病院

<https://facebook.com/HamamatsuUniversityHospital>

